

# 川とさし



第 98 号

2019 年 1 月

日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



# フクロウの飼育に思う。

津市 平井 正志

昨今フクロウ喫茶なるものがあるという。店内でフクロウが飼育されているという。ウェブ上でも多くの店が紹介されている。現在の日本では野生のフクロウを捕獲して飼育することは禁じられているので、輸入されたフクロウであるはずである。フクロウ類はワシントン条約で輸出入が制限されており、輸出国の許可証が必要である。これらのフクロウは許可証付きのものであろう。

フクロウ類は肉食であり、食物連鎖の頂点近くに位置し、元々生態系の中では個体数が少なく、環境の変動により、激減する可能性がある。食物連鎖の下位に位置するスズメやメジロなど個体数の多い鳥類とは全く別である。日本に生息するフクロウ類が数少ないことを考えれば納得できよう。また、アオバズクやフクロウで見ると樹洞を巣とするので、大木がなくなると繁殖できなくなる。



メンフクロウ

いずれの国でも経済発展の多くは森林の伐採を伴う。この点はフクロウ類にとって深刻である。この2点からもいわゆる開発行為で真っ先に減少し、絶滅を危惧される種となる。日本のフクロウやアオバズクでも同じである。シマフクロウは人工の巣箱の設置でかろうじて個体数を維持している。

しかし、先進国の一つと自認している日本ですら、フクロウ、アオバズク、コノハズク等がどれくらい棲息しているか把握されていない。レッドリスト作成の過程でごく大まかな推定はしているはずであるが、実際に生息数を調査したとは聞かない。フクロウを輸出している国、開発途上国が多いであろう、が棲息数などを把握し、個体数を減らすことなく捕獲できる個体数を算出できているのだろうか、大いに疑問である。

## 目次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| フクロウの飼育に思う。-----           | 2  |
| 表紙の言葉-----                 | 2  |
| コウノトリ見聞-----               | 3  |
| 2018年 東紀州市木川河口及び水田探鳥会----- | 4  |
| 事務局だより-----                | 4  |
| 経ヶ峰に風車が・・・-----            | 5  |
| 2018年 偕楽公園のアオバズク-----      | 6  |
| 2018年度 タカの渡り-----          | 7  |
| 日本野鳥の会 第26回                |    |
| 中部ブロック会議新潟大会報告-----        | 8  |
| トキにときめいて-----              | 9  |
| シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化      |    |
| 一連載 14回 エリマキシギー-----       | 10 |
| 2018年 三重県で観察された            |    |
| カラフトアオアシシギ-----            | 14 |
| カラフトアオアシシギについて-----        | 14 |
| 野鳥記録-----                  | 16 |
| テレビ番組「伊勢 美し国から」-----       | 20 |
| 今後の探鳥会予定-----              | 20 |
| 探鳥会報告 (2018年8月～11月)-----   | 21 |
| 編集後記-----                  | 24 |

## 表紙の言葉

津市 平井 正志

ホオジロガモ

小さな海ガモ。普段は沖にいてよく見えないが、安濃川では1, 2羽が河口に入り込んでエサを取っている。水面に浮かんだがと思うと、次の瞬間には潜ってしまう。そして、とんでもない場所に浮上する。オスはよく目立つ魅力的な羽色であるが、ゆっくりと見ていられないカモである。このカモが身近で見ることのできる安濃川河口は貴重な場所である。

もう、一点、我々は野外でソウシチョウなど海外産の鳥を時々見かける。三重では見られないがガビチョウやキンパラなども野外で繁殖している。クジャクですら、石垣島では繁殖し、そこらへんをのし歩いている。これら飼育されているフクロウが野外へ出る可能性はなしではなかろう。フクロウ類が野外で繁殖するとその生態系への脅威は大きい。日本の野生のフクロウ類と縄張りや捕食を争うことになる。元々数の少ない在来野生のフクロウ類が競争に負けて、減少すればすぐに絶滅の危機に陥る。

たしかに、コーヒーを飲みながら、フクロウの愛らしい仕草を楽しむのは良いかもしれない。相当なリスクのある娯楽と言わざるを得ない。

この種の喫茶が近隣の国に広がるのも避けるべきである。ワシントン条約ではゴクラクチョウ類や

スミレコンゴウインコなど大型インコ類のいくつかの種のように全面的に輸出入が禁止されているものもある。日本は率先してワシントン条約の改変を提唱し、フクロウ類の輸出入全面的に禁止に動くべきである。むろん、学術研究や公立動物園での飼育目的などは除外しても構わない。しかし、これにはかなりの時間を要するであろう。国際的な取り決めができるまでは日本独自にフクロウ類の輸入を禁止することで、先進国の役割を示すべきである。

また、現在飼育されているフクロウ類については種類、個体数を正確に把握し、適切な管理を義務付け、籠脱け、あるいは放鳥して野外で繁殖する危険性を減らす対策を取るべきである。また、万一、野外で繁殖した場合、生態系に対して、どのような危険性があるか予測すべきであろう。

## コウノトリ見聞



伊勢市 中村 悦子

10月の初めに明和町大淀周辺にコウノトリが来ているとの情報を得て、早速7日の日曜日に加島さんと一緒に見に行きました。朝早めに行ったのでどこにいるのかわからないまま他の地区に探しにいってしまいました。いるはずだからと大淀地区へ戻ってきたところに大きく羽ばたく2羽のコウノトリが目の前を通過していきました。

私は初めてコウノトリを見ましたがダイサギが周りにいてもひと回り大きくてすぐわかります。舞い降りた場所を確認してから車から観察しました。コウノトリはあるきながらエサを探しているのので少しずつ私たちも移動します。その後コウノトリの近くに2~3台の車が停まり写真を撮り始めました。でもだんだん近くに寄っていくのですね。するとコウノトリは逃げます。ときには飛びます。また写真家たちは車で移動して近くまで寄って撮るの繰り返しを見ました。

私たちは双眼鏡で満足し、帰りがけに「喫茶越前」さんに寄りました。店主の話では夕方に民家の屋根に止まるとのことで、私は夕方にもう一度喫茶店に行き待っていると6時ごろ西の方から2羽が戻ってきました。戻ったのを確認して帰宅しました。



明和町に滞在したコウノトリ 撮影：濱屋 勝則

後日の新聞から福井県と越前市が放鳥した「ころ」と「ひかり」の姉妹とわかりました。「自然環境大使」として飛来先の自治体に大切に見守れる静かな環境を維持してほしいと生息保護に理解を求めています。ところがその後2回午前中に見に行くと車の数が増えてコウノトリが移動するたびに車も追いかける様子を何度も見ました。

14日のゆうがたに民家の屋根に戻ってきたのを確認して帰ろうとしていたら、なんとライトアップされました。これには驚きました。15日には戻ってきませんでした。10日ほど滞在していたようですが、せつかく話題になったのに町民の方には静かに見守ることがわかっていないのがとても残念でした。もしまた珍鳥が飛来したときには静かに見守ってほしいです。

## 2018年 東紀州市木川河口及び水田探鳥会

四日市市 笹間 俊秋



毎年10月の上旬、御浜町市木の市木川河口付近で探鳥会が行われています。ここ3年は、環境省の宇久井ビジターセンター、御浜町と共催で行われていて一般の方も多数参加されています。

市木川河口周辺は太平洋側を渡る野鳥の休憩場所となり、度々貴重な野鳥が立ち寄ります。過去にはバライロムクドリ、ヤツガシラやシマアオジなどが観察されています。今年の探鳥会前日の下見ではコウノトリの通過も確認されました。

2018年10月14日の探鳥会当日は、早朝まで弱い雨が降っており開催が心配されましたが、午前9時の開始までには晴れ間も見えて無事探鳥会を行うことが出来ました。参加者は地元の方だけではなく、桑名、津市、和歌山県の方や遠くは京都からも来られ、総勢26名の方が参加されました。



上昇気流に乗るオオタカとトビ

探鳥が始まり水田周辺を散策しているとノビタキが多数杭などの上にとまり、電柱にはミサゴ、ノスリ、イソヒヨドリ、モズなどが観察出来ました。しばらくすると雲が晴れ気温が上がってきて暑くなってきました。すると上昇気流が発生し、トビ、チョウゲンボウに続いてオオタカ、チゴハヤブサなど猛禽4羽が一斉に空高く舞い上がって行きました。さらに遠くを双眼鏡で見るとコシアカツバメ、ヒメアマツバメが舞っている姿も確認出来ました。探鳥会に参加された方は普段あまり見かけない野鳥が観察出来て感動されていました。この日は合計33種類の野鳥を確認することが出来ました。

熊野など東紀州では、よく探してみると日本海側とは違った種類の野鳥の渡が観察出来ます。近年は高速道路も整備され、伊勢や四日市方面からも行きやすくなりました。皆さんも渡りの季節には是非一度熊野地方に観察へ訪れて見てください。

### 事務局だより

活動の記録 (2018年9月～11月)

2018年

- |          |  |
|----------|--|
| 9/15     | 会報「しろちどり第97号」発行・発送作業                                       |
| 9/22     | リニューアブル・ジャパン株式会社へ「松阪飯南ウインドファーム発電所に係る環境影響評価準備書に対する意見書」を提出   |
| 9/24     | 松阪市「くるくる環境フェスタ IN ベルファーム」に出展                               |
| 9/24     | メナード青山リゾート野鳥観察会へリーダー派遣                                     |
| 10/3     | 株式会社グリーンパワーインベストメントへ「ウインドファーム津芸濃事業に係る計画段階環境配慮書についての意見書」を提出 |
| 10/18    | 経済産業省中部経済産業局に赴き、経済産業大臣宛ての「四日市足見川メガソーラー事業に対する要望書」を提出        |
| 11/3～5   | 日本野鳥の会第26回中部ブロック会議(新潟)へ参加(副代表 他)                           |
| 11/10～11 | 平成30年度日本野鳥の会連携団体全国総会へ参加(代表)                                |
| 11/24    | 第2回理事会   |



## 経ヶ峰に風車が・・・

津市 岡八智子

昔高校卒業記念に学友達と経ヶ峰に初めて登りました。東側からの登山は植林の中で帰りに少し迷った事もあり嫌いな山となりましたが年を経て野鳥の会の仲間と2006年頃経ヶ峰の北側の笹子谷林道を案内して頂いてその素晴らしさに感動してその年毎月定点観察をしました。車道奥の駐車場から溪流沿いの林道を登山口まで歩くとミソサザイが何つがいか居て素晴らしく、他にもオオルリをはじめ野鳥の声にうっとり・・・山野草も結構次々咲き雑木の種類も多く毎月が楽しみでした。駐車場の先に新たに長野の方に車道を建設するとかで工事用のトラックがその林道を走るので悪路になって段々歩き難くなって来ました。

こんな車道を作って誰が通るのかな？山頂の近くを通るので経ヶ峰にも簡単に行けるようになるのか・・・そんな山を壊してまで車道が必要なのかなとも思いました。何処まで進んだのか最近行って無いので見に行かねば・・・数年前の豪雨でアチコチ被害がありあの美しかった溪流も見る影もありません。ミソサザイもめっきり減りました。山野草も皆流されたようで昔の面影が無くなりました。これらも工事の影響もあるかも知れません。

10年前から登山に誘われ経ヶ峰の色々なコースを知って改めて経ヶ峰の素晴らしさが分かりました。経ヶ峰の西側は植林も少なく雑木が素晴らしくなかでもピンクのヤマボウシが咲くのが楽しみです。山小屋も自慢の一つで管理されてる登山家でもある山本先生が照明を取り付けて下さったりトイレ掃除も・・・山道の整備も・・・本当に頭が下がります。何処の山を登ってもこんな素敵な山小屋はありません。この山小屋で仲間と鍋会・ぜんざい会をして楽しんでます。安濃町も毎年経ヶ峰の登山を開催して沢山の方が登っています。そんな沢山の人に愛されてる経ヶ峰に風車が・・・信じられません。家を一步出ると遠くに青山高原北側に風車が並んでるのが見えます。



経ヶ峰



三重県の山岳部に生息するクマタカ

電気が必要なのは分かりますが何故こんな所に・・・と何時も悲しく思います。それがもっと身近な経ヶ峰に・・・とうとう足元に火が付いて来ました。

山頂から西方に大きな鉄塔が目につきます。通称“赤白鉄塔”と言ってますが今回出かけてみました。その長野側の車道を登ると左に“経ヶ峰登山口”の標識があると聞き探せどみつからず1時間程登りつめるとあの赤白鉄塔が目の前に・・・ここまで車で行けるのかとビックリです。この先笹子谷へ如何車道を造って行くのでしょうか？その鉄塔の直ぐ横に新たな鉄塔が・・・どうも風力を計測する為の様です・・・ここまでもう仕事が進んでるのかと啞然としました。この車道が風車を導いたのでしょうか・・・

尾根に出て山頂へ向かう途中5ヶ所も平木への分岐があり改めて平木の方達の経ヶ峰への思いが偲ばれました。それだけに今回の風車問題は驚きです。

経ヶ峰にもクマタカが居るそうで静かな自然一杯の山を破壊しないで願うばかりです。

経ヶ峰とその周辺の山域には現在2つの風力発電計画が浮上している。それによると長野峠から北側の尾根沿いに、また経ヶ峰西側の山域におよそ24基の風車が建設され、一部は麓の津市からも遠望できるとされている。この山域にはクマタカが生息することが知られており、風車が建設されるとクマタカの生息に大きな影響を及ぼすであろう。

(編集部)

## 2018年 偕楽公園のアオバズク



松坂市 西村 四郎

津駅に近い偕楽公園には、毎年アオバズクがやっ  
てきます。

本年も5月24日に初観察し、7月29日が最終  
確認になりましたが、無事3羽のヒナが巣立ちまし  
た。

渡ってきた最初の頃は雌は巣穴にこもり、近くで  
雄がじっと止まっています。



こちらをうかがう雄

昼休みに見に行くのですが、巣穴がみえる範囲で  
時々場所を変えて止まっていました。雨が降っても  
ずぶ濡れでじっとしています。



ずぶ濡れの雄

7月11日に2羽（雄、雌）が出ていました。い  
よいよヒナが孵ったようです。



7月20日に待望のヒナが出てきました。出では、  
巣穴に戻っています。23日には枝に止まるようにな  
りました。

台風明けの29日に親子5羽が確認されています  
が、30日にはいませんでした。  
また、来年の楽しみです。





## 2018年度 タカの渡り

2018年度の当会主催のタカの渡り探鳥会は天候不順と台風直撃の影響で、すべて中止となりました。そのため探鳥会による公式なカウントは出来ませんでした。それでも有志による渡りの観察記録が寄せられましたので表を参照してください。

### 鳥羽タカ渡り記録 2018

観察日：2018年10月2日

天候：快晴 北東の風

観察時間：開始 10:10・終了 16:15

観察者：川村晴彦

場 所：鳥羽市鳥羽5丁目ファミマ裏、加茂川左岸堤防

### 伊勢タカ渡り調査結果

観察日：2018年9月26日～10月9日

観察者：高木正文・濱屋勝則

場所：伊勢市藤里町やすらぎ公園

表 伊勢タカ渡り 2018

| 観察日   | 観察数(羽) |
|-------|--------|
| 9月26日 | 0      |
| 9月28日 | 16     |
| 10月2日 | 130    |
| 10月3日 | 650    |
| 10月7日 | 9      |
| 10月8日 | 30     |
| 10月9日 | 7      |
| 計     | 842    |

表 鳥羽におけるタカ渡り 2018

| 時刻    | 種名   | 個体数 | 飛行方向 など           |
|-------|------|-----|-------------------|
| 10:20 | サシバ  | 1   | 南東                |
| 10:40 | ミサゴ  | 1   | 南東～頭上～東～頭上～西      |
| 10:48 | サシバ  | 1   | 頭上～上昇             |
| 10:55 | サシバ  | 2   | 南東～頭上～西           |
| 10:55 | ハチクマ | 2   | 南東～頭上～西           |
| 11:05 | サシバ  | 3   | 東～樋ノ山             |
| 11:08 | サシバ  | 20  | 東～西 タカ柱 ハチクマ数羽を含む |
| 11:08 | サシバ  | 13  | 東～西 タカ柱           |
| 11:18 | サシバ  | 1   | 東～西               |
| 11:22 | サシバ  | 6   | 東～西               |
| 11:24 | サシバ  | 2   | 東～西               |
| 11:31 | サシバ  | 1   | 東～西               |
| 11:46 | サシバ  | 2   | 南西～上昇             |
| 11:55 | サシバ  | 1   | 南東～西              |
| 11:05 | サシバ  | 1   | 東～頭上で上昇           |
| 11:59 | サシバ  | 1   | 南～西 以降 一時中断       |
| 13:43 |      |     | 再開                |
| 13:49 | サシバ  | 2   | 東～西               |
| 13:58 | サシバ  | 4   | 南東～西              |
| 13:58 | ハチクマ | 1   | 南東～西              |
| 14:05 | サシバ  | 2   | 南上昇               |
| 14:24 | サシバ  | 1   | 南上昇               |
| 14:46 | サシバ  | 1   | 南上昇               |
| 14:49 | サシバ  | 1   | 南上昇               |
| 14:55 | サシバ  | 3   | 南～西               |
| 15:31 | サシバ  | 2   | 東～西               |
| 15:38 | サシバ  | 29  | 南東～西 タカ柱          |
| 15:54 | サシバ  | 27  | 南東～西 タカ柱          |
| 15:57 | サシバ  | 20  | 南東～西 タカ柱          |
| 15:59 | サシバ  | 11  | 南東～西 タカ柱          |
|       | サシバ  | 158 |                   |
| 計     | ハチクマ | 3   |                   |
|       | ミサゴ  | 1   |                   |

### サシバ・ハチクマの渡り

今年のサシバ・ハチクマの渡りは9月19日に長野県白樺峠にて4000羽以上が通過し、北勢地方では9月23日にピークを迎えました。一方の伊勢方面では台風24号通過後、10月3日にピークを迎え600羽以上の渡りが観察されました。

### ハイタカ・ツミの逆渡り

タカの渡り観察はサシバ・ハチクマが一般的で9月下旬から10月上旬が見ごろです。私は近所の会員の方に誘われて11月7日に伊良湖まで観察に出向きました。最初は11月にタカの渡りなんてと思いましたが、現地に行くと次々とハイタカが渡って来て、3時間で60羽ほどが通過しました。サシバ・ハチクマは日本から東南アジア方面へ渡るので、通常東から西へ行きますが、渡りをするハイタカ・ツミは大陸から朝鮮半島を経由して日本へ渡ってくる個体も多いため西から東へ行くものがあります。これが逆渡りと呼ばれるものです。

もちろん、北日本から西日本へ渡っていくものもいます。日本を越冬地とするオオタカ・ハイタカ・ツミなどは移動距離が短いため9月下旬から始まり12月上旬まで長い間渡りが続きます。ピークは11月中となり、この時期の渡りは双方向から来ますので全方位を観察していないと気が付いた時にはタカの後姿ばかり見るようになってしまいます。

渡りはタカだけではなく他の旅鳥・冬鳥も通過しますので、晩秋に高台で渡りを観察すると例えばイスカなど思わぬ鳥に出会えるかもしれません。

(笹間 俊秋)

# 日本野鳥の会 第 26 回中部ブロック会議新潟大会報告



四日市市 安藤 宣朗

2018年11月3日から5日まで新潟市「ビュー福島潟とホテル湖畔」にて第26回中部ブロック会議が開催された。今回は特別企画としてエクスカーション「佐渡島トキ観察会」があった。その概要を報告する。

## 1. 参加者数

地元新潟 16名、本部 4名をはじめ中部 10県 37名、総勢 57名  
三重から 2名参加：西村泉（事務局長）と安藤宣朗（副代表）

## 2. 会議

### 1) 講演 テーマ「日本の自然と鳥の生息環境の保全」

- ・新潟県の環境と鳥・・・日本野鳥の会新潟県会長 石部久氏  
トキを事例に新潟、佐渡の特徴的な自然環境を紹介した。
- ・トキの生態と佐渡の鳥・・・日本野鳥の会佐渡支部 土屋正起氏  
トキの自然復旧事業に当初から主体的に推進し、生息環境の整備や佐渡トキ保護センター及びトキの森公園など諸施設の運営に携わった経験を解説、中身のある講演であった。
- ・イソヒヨドリの生態・・・長岡市立科学博物館 動物研究室 鳥居憲親氏  
近年都会に生息し始めたイソヒヨドリのモニタリングを基に、テリトリーの形成や習性を研究その成果を発表した。

### 2) 連携活動の報告・・・2017年石川会議で決定した連携活動の報告

- ・中部地方のイソヒヨドリの生息分布・・・イソヒヨドリPT（福井、愛知、諏訪、沼津）  
全県から過去～現在までのデータ 1470件を集計し、色々な角度から分析した結果  
1970～2008年に内陸に生息を広げていた。内陸への生息域の変化は顕著に見られない。  
河川沿いに生息域を広げて行った事などが解明された。
- ・中部地方のコアジサシの生息分布・・・コアジサシPT（富山、三重）  
17か所の繁殖地と約1,850羽の生息を確認した。  
年毎に生息場所や飛来数が大きく異なるので今後もデータの蓄積が必要である。
- ・コアジサシ研究のためのデゴイ量産化・・・愛知支部  
バイオプラスチック（燃焼可能）で量産できる。購入は直接製造元「阿久津樹脂工業」へ  
TEL：048-955-0875へ @ ¥450 税別
- ・遠州灘海岸防潮堤事業と野鳥生息環境・・・遠江  
遠州灘海岸の遠江エリア約28kmに10数mの盛土が進行中であり、特にコアジサシの繁殖に影響が考えられる事からモニタリングを強化していく。
- ・沼津支部管理の野鳥保護区の活動について・・・沼津

### 3) 連携活動の方向付けについて下記を合意した。

- ・イソヒヨドリ、コアジサシの生息調査は継続調査する。
- ・ミヤコドリの調査は三重県以外で観察した場合 ML で情報提供する、まとめは三重
- ・新たに連携活動でとり上げたいテーマとしてカンムリカイツブリ、ジョウビタキ、ブッポウソウの繁殖調査の提案があり、具体化案を新潟県で作成する。

## 3. 観察会

- ・コハクチョウのねぐら立ち観察・・・鳥屋野潟野鳥観察舎「鳥観庵」  
早朝、湖面に浮かぶ5,000羽を超えるコハクチョウが次々と家族毎に飛び立つ様子を観察し堪能した。

## 4. エクスカーション佐渡市

- ・4日新潟港から船で佐渡へ。両津港到着後、バスでトキの森公園へ向かう途上広がる田園にトキの採餌の姿が幾度も見られた。1981年に自然絶滅したトキがこのような野生化し自然環境に生息

している様子に感動すると同時に地元関係者や関係機関の努力のたまものである事を痛感した。

- ・トキの森公園、佐渡保護センター、野生復帰ステーションを見学後、宿舎のトキ交流館前で50羽ほどのトキのねぐら入りを観察した。
- ・2018年10月26日現在島内に368羽(内95羽は野生生まれ)本州富山県に1羽が生息している。

#### 5. 次回のブロック会議 (予定案)

- ・担当：岐阜支部
- ・開催：2019/6/8～9日「朴木の平」で開催



野生のトキ

## トキにときめいて



玉城町 西村 泉

2018年11月3～5日、日本野鳥の会 第26回中部ブロック会議・佐渡島エクスカージョンに参加しました。



日本産最後のトキの記念碑

佐渡島はトキが暮らす琵琶湖より少し大きい島。特別天然記念物・国際保護鳥に指定されているトキとはどんな鳥だろう、その生息地とはどんな所だろうかと期待に胸を膨らませながら4日佐渡の両津港でマイクロバスに乗り込みました。

バスが走り始めてまもなく1羽のトキを発見しました。まるでサギのようにトキは田んぼにポツンといて採餌している様子でした。

そのあとも次々と20羽あまりのトキを見ました。三重の田園風景と何ら変わらない所で、すぐ観察できたことに深く感動しました。バスに乗っている参加者も興奮気味で写真撮影をしていました。じつはトキの島ならではの厳しいルールがあり、観察や写真撮影は車の中からしかできないことになっています。しかし幸いなことに宿舎の前の森がトキのねぐらになっていて、身近でねぐら入りを観察できました。

夕方5時ごろになると2～3羽ずつあちこちから飛んできました。肉眼では白色ですが、双眼鏡では翼の内側の橙色と薄桃色を混ぜたようなまさに朱鷺色の羽が美しく見えました。その美しい羽をもったため乱獲されたトキの哀しい歴史に、しばし思いを巡らせてしまいました。

翌朝、ねぐら立ちのトキが多く見られる場所に案内してくれるというので、玄関で待っていました。ところが一向に皆さんが出てこない、しかもマイクロバスもない、なんと女性陣だけ置いてきぼりにされたのでした。仕方がないので、宿舎前の森から飛び立つトキを見ることにしました。

空が白み始めた6時頃、森の方からウカア、ブカアとカラスのような騒がしい声が聞こえてきました。トキの声です。知らなかったらカラスの声だと聞き流していたでしょう。やがて、一斉に15羽くらいのトキがねぐらから出て、散り散りに餌場へと飛び立っていきました。あっという間の出来事でした。トキの声はお世辞にも綺麗な声とはいえませんが、群れで飛行する姿は素晴らしく魅了されました。

かつては日本各地にトキがいたそうです。一時野生下では絶滅しましたが、再び野生復帰ができて本当に良かったと思いました。長年トキの保護に力を尽くしてきた人々に感謝しつつ、長い年月がかかりますが、また日本中の空にたくさんのトキが舞うことを心から願っています。

# シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化

## —連載 14 回 エリマキシギ—



津市 今井 光昌

エリマキシギは春秋に日本各地に渡来する旅鳥ですが、渡来数は多くありません。渡来数の大部分が秋に見られる幼鳥で、成鳥の渡来は稀です。♂夏羽は繁殖期に後頭から頸に襟巻状の派手な飾り羽が出ることから、バーダーの憧れですが、日本では襟巻の出た♂の完全な夏羽が見られることはごく稀です。三重県にも春の渡りで時々♂成鳥が立ち寄りますが、完全な夏羽になるまで滞在したことがありません。エリマキシギは淡水域を好むシギですが、砂浜や干潟で見られることもあります。また、本州中部以南で越冬することもあります。全長は♂が約 28cm、♀は 22cm程で、♂より♀の方が一回り小さいです。図 1a と図 1b は同じ個体の襟巻を膨らます前後の♂の写真で、愛知県で撮影したのですが完全な♂の夏羽になっています。♂夏羽は羽色が赤褐色系、黒色系、白色系などバリエーションが豊富で、個体により羽模様が大きく異なります。一方、♀夏羽は襟巻がなく、羽色も地味です。図 2a と図 2b は♀夏羽の同一個体です。♀夏羽の上面は灰褐色で黒色の軸斑があり、頸から胸にかけては黒褐色の横斑があります。

### エリマキシギ成鳥夏羽



図 1a エリマキシギ♂成鳥夏羽 2018.05.19



図 1b エリマキシギ♂成鳥夏羽 2018.05.19



図 2a エリマキシギ♀成鳥夏羽 2011.05.10



図 2b エリマキシギ♀成鳥夏羽 2011.05.11

## エリマキシギ成鳥 夏羽に換羽中

図3は4月26日の襟巻が少し出てきた換羽中の♂成鳥です。図4は同じ個体の1週間後の5月3日の姿です。ブルブルッと羽毛を膨らませたその姿は夏羽の完成羽かと思わせますが、まだ飾り羽も短く完全な夏羽とは言えません。



図3 エリマキシギ ♂成鳥夏羽に換羽中 2008.04.26



図4 エリマキシギ ♂成鳥夏羽に換羽中 2008.05.03



図5 エリマキシギ ♂成鳥夏羽に換羽中」2010.04.13



図6 エリマキシギ ♀成鳥夏羽に換羽中 2017.04.06



図7 エリマキシギ ♀成鳥冬羽に換羽中 2007.08.21

図5の♂成鳥は前頸の白さから夏羽完成時には真っ白な襟巻が予想されます。♂の夏羽は頭部や上面の羽模様、嘴の色、足色の個体差が大きいです。図6は冬羽から夏羽に換羽中の♀成鳥です。雨覆、三列風切に黄褐色の斑のある夏羽が出始めています。図7は8月の夏羽から冬羽に換羽中の♀成鳥です。上面に黄褐色の斑のある夏羽が残り、肩羽に灰褐色の冬羽が出てきています。♀夏羽の嘴は黒く、足色は♂同様に橙、黄、赤、褐色など様々で、上面は軸斑が黒く、淡色の羽縁があり黄褐色の斑があります。

**エリマキシギ成鳥冬羽 雌雄**



図8 エリマキシギ ♂成鳥冬羽 2007.02.20



図9 エリマキシギ ♀成鳥冬羽 2010.01.05

冬羽は♂♀とも上面が一様な灰褐色で白い羽縁があり羽模様が似ています。図8の♂と図9の♀の羽色が違って見えるのは光線の差によるもので、ほぼ同じ羽色です。成鳥冬羽や幼鳥は雌雄の識別が羽色からは難しいので体形や嘴の形状、体の大きさなどから♂♀を判断しています。成鳥冬羽の足色は黄緑色が多いですが、図9の個体は明るい橙味のある黄色です。足色にも個体差があります。

**幼鳥 雌雄**



図10 エリマキシギ 幼鳥雌雄 2014.08.30

幼鳥は成鳥冬羽に似ますが褐色味が強く、体上面は黒褐色の軸斑とバフ色の羽縁が目立ちます。足の色は主に鈍い黄緑色ですが、個体差があります。図10では体の大きさから左が♂で右が♀と判断できます。体形も♂の方が体に対して頸が長く頭部が小さく見えます(図11)。♂成鳥夏羽は色彩、羽模様とも変化に富んでいますが、幼鳥にも個体差があり、雌雄とも灰褐色の強いものから橙色味の強いものまであります。図12の幼鳥は上面の黒色の軸斑と橙色の羽縁のコントラストが強く、下面の橙色味も強いです。



図11 エリマキシギ ♂幼鳥 2007.09.13



図12 エリマキシギ ♀幼鳥 2011.09.08

## 第1回冬羽に換羽中→第1回夏羽に換羽中



図13 第1回冬羽に換羽中 2011.11.26



図14 第1回冬羽 2012.01.14



図15 第1回夏羽に換羽中 2012.04.07

11月26日の2個体(図13)は第1回冬羽に換羽中の♀幼鳥ですが、足色は鈍い緑色と黄色でした。足色が黄色い方は成鳥ではないかと疑いを持ちましたが、幼羽の特徴である黒い軸斑のある羽が雨覆に残っています。図14は図13と同じ2個体の1月14日の羽衣です。肩羽に灰褐色の冬羽が多く出ており、第1回冬羽への換羽が進んでいます。

2011年11月から2012年にかけて越冬した2個体でしたが、黄色の足の個体は1月17日にいなくなり、鈍い緑色の足の個体だけが4月7日まで居残りしました(図15)。上面に軸斑が黒く、白い羽縁と黄橙色の斑がある夏羽が多く出ています。この日が終認となり、第1回夏羽がどこまで換羽するのか、成鳥夏羽との違いを観察できませんでした。図鑑でもネット上でも第1回夏羽の写真を探し出すことができません。

## 最後に



図16 コモンシギ幼鳥 2012.09.25

エリマキシギと姿の似た種にコモンシギがいます。コモンシギはエリマキシギの♀より小さく全長は約19cmです。野外観察では細部まで観察しにくいので、小さなエリマキシギだと思った時はコモンシギを疑ってみましょう。コモンシギはエリマキシギに比べて嘴が短く、足も短いです。眼が大きく、過眼線がなく、白いアイリングが目立つ個性的な可愛い顔つきをしています。

## 2018年 三重県で観察されたカラフトアオアシシギ

松阪市 吉崎 幸一



カラフトアオアシシギ 2018.09.03 撮影：吉崎 幸一



## カラフトアオアシシギについて

津市 平井 正志



カラフトアオアシシギは Spotted Greenshank あるいは Nordmann's Greenshank (*Tringa guttifer*) と呼ばれており、東アジアに生息する中型のシギ。サハリンおよび大陸オホーツク海東岸で繁殖し、マレー半島、スマトラ島などで越冬する。渡りの途中に日本、韓国、中国沿岸を通過する。中国江蘇省などでは多数の個体が観察される例がある。IUCN (International Union for Conservation of Nature) によると全世界での推定生息個体数は 600 から 1300 であり、レッドリストでは EN (絶滅危

惧種) としてランクされ個体数は減少傾向にあるとしている。

カラフトアオアシシギの繁殖はサハリン島すなわち樺太であり、1935 年、1936 年に黒田長礼により樺太南部のアニワ湾岸で繁殖が発見された。しかし、1970～80 年代に調査したネチャーエフはアニワ湾では繁殖を確認できず、サハリン北部のタートル海峡側、およびオホーツク海側チャイボ湾周辺の海岸に近い湿地で繁殖を確認している。また樺太中部のテルペニヤ湾岸でも繁殖の可能性があるとされている。

彼は繁殖つがい40つがいを超えないであろうと記載している（ネチャーエフ サハリンの鳥類3 <藤巻裕蔵訳=極東鳥類研究会>）。また、A.Y. Blakhin は1988年～1991年にサハリン北部東岸チャイボ湾周辺を調査し、カラフトアオアシギの巣は1kmあたり0.1～0.2巣と報告しているが、全繁殖数の推定はされていない。なお、大陸オホーツク岸での繁殖についてはネチャーエフも言及しておらず、詳細は不明である（図1）。

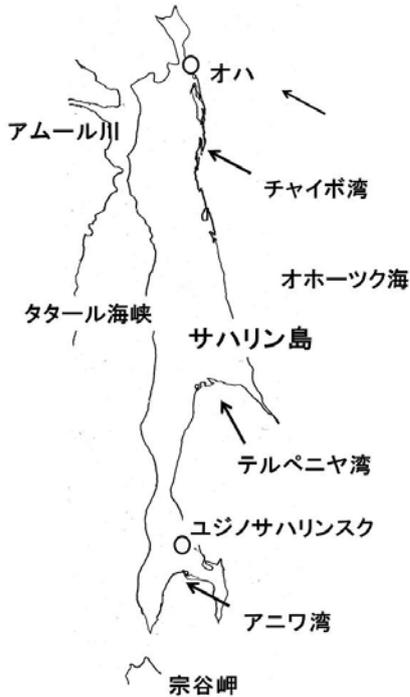


図1 サハリン島

C. Zöckler, らは本種の東南アジアでの越冬について調査し、850から950羽が越冬していると推定している。また、その多くはタイとマレーシアで越冬し、少数はスマトラやミャンマーで越冬するとしている。したがって、オーストラリアで越冬するミユビシギやオオジシギなどと異なったルートを渡るようであり、大陸沿岸が主なルートである可能性が高い（図2）。

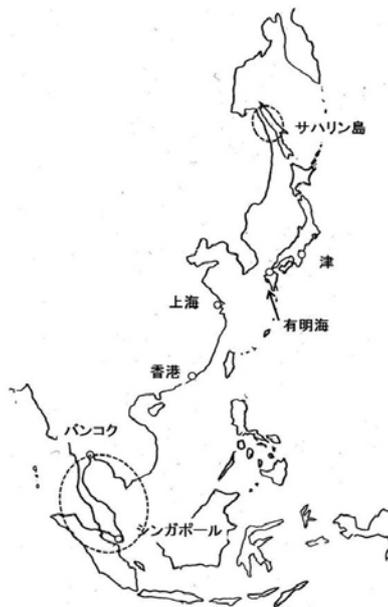


図2 カラフトアオアシギの繁殖地及び越冬地

日本では毎年数羽が記録されているが、多くは北九州、有明海の大授掬（だいじゅがらみ）や博多湾東部で記録され、それ以外では稀である。多くの場合1羽が単独で記録されるが、まれに複数が記録されるが、最大でも5羽であり、多数の群れで観察されたことはない（バードリサーチ集計のモニタリング1000事業）。本県近隣では愛知県 汐川干潟、静岡県 富士川河口、大阪北港 南地区などで記録がある。

三重県では古く 1953年9月8日に伊勢市檜原新田で1羽が捕獲され剥製標本になっている。橋本太郎氏が採集したものと思われる（橋本太郎著：三重県鳥類の分布と生態）。

それ以降は 1976年9月26日に榑田川湿田で記録があるが、発見者は死去しており、詳細は判然としない。



図3 カラフトアオアシギ(右端の1羽) 他はキアシシギ

また、2002年9月5日から8日 五主海岸で記録がある。図3はその時に撮影されたものと判断される。撮影者は故 谷本勢津雄氏である（図3）。

くちばしの根元の太く、足は黄色味を帯び、やや短い特徴がよくあらわれている。したがって今回の記録は16年ぶりの記録である。今回の個体については14ページに写真が掲載されている。



## 野鳥記録 (2018年8月16日から2018年11月20日までに報告があったもの)

| 野鳥の種類名     | 個体数 | 観察月日           | 観察場所 (三重県) | 雄 / 雌 / などの区別 | 記録報告者名 | 脚注 |
|------------|-----|----------------|------------|---------------|--------|----|
| キンクロハジロ    | 1   | 9月 8日          | 四日市市 海蔵川   | 雄             | 堀田 正昭  | 1  |
| クロハラアジサシ   | 3   | 8月 23日         | 桑名市城南海岸    | 成鳥            | 山神 勝治  | 2  |
| アジサシ       | 1   | 9月 7日          | 桑名市城南海岸    |               | 山神 勝治  | 3  |
| アカアシカツオドリ  | 1   | 9月 13日         | 四日市市楠町派川沖  | 幼鳥            | 山神 勝治  | 4  |
| クロトウゾクカモメ  | 1   | 9月 13日         | 四日市市楠町派川沖  | 幼鳥            | 山神 勝治  | 5  |
| エゾビタキ      | 1   | 9月 19日         | 三重県伊賀市霧生   |               | 玉田 浩司  | 6  |
| センダイムシクイ   | 5以上 | 8月 28日         | 垂坂公園       |               | 今西 純一  | 7  |
| キビタキ       | 1   | 9月 17日         | 垂坂公園       | 雄、成鳥          | 今西 純一  | 8  |
| エゾビタキ      | 1   | 9月 23日         | 垂坂公園       |               | 今西 純一  | 9  |
| コウノトリ      | 1   | 9月 17日         | 四日市市札幌町    | 雄、成鳥          | 安藤 宣朗  | 10 |
| オオアジサシ     | 30  | 10月 1日         | 松阪市・五主海岸   |               | 笹間 俊秋  | 11 |
| クロハラアジサシ   | 4   | 10月 1日         | 松阪市・五主海岸   |               | 笹間 俊秋  | 12 |
| ハシブトアジサシ   | 2   | 10月 1日         | 松阪市・五主海岸   | 成鳥、幼鳥         | 笹間 俊秋  | 13 |
| オオミズナギドリ   | 100 | 10月 13日        | 鈴鹿川派川の沖    |               | 寺尾 日那  | 14 |
| ジョウビタキ     | 1   | 10月 14日        | 垂坂公園       | 雌             | 今西 純一  | 15 |
| アオジ        | 2   | 10月 21日        | 垂坂公園       | 雄、雌           | 今西 純一  | 16 |
| ジョウビタキ     | 1   | 10月 17日        | 菰野町三重県民の森  | 雌             | 矢田 栄史  | 17 |
| ジョウビタキ     | 1   | 10月 27日        | 木曾岬自宅の前    | 雌             | 米倉 静   | 18 |
| ムギマキ       | 1   | 10月 25日        | 大台町佐原      | 雄、若鳥          | 西村 四郎  | 19 |
| セイタカシギ     | 6   | 11月 3日         | 鈴鹿市        |               | 今西 純一  | 20 |
| シロハラ       | 1   | 11月 11日        | 垂坂公園       |               | 今西 純一  | 21 |
| アカエリヒレアシシギ | 2   | 9月 21日         | 名張市赤目町     | 幼鳥、落鳥         | 田中 豊成  | 22 |
| ノビタキ       | 8   | 9月 26～ 10月 21日 | 伊賀市四十九町    |               | 玉田 浩司  | 23 |
| ベニマシコ      | 6   | 11月 7日         | 伊賀市比土      | 雄 3羽、雌 3羽     | 玉田 浩司  | 24 |
| オシドリ       | 18  | 11月 14日        | 名張市薦生 名張川  | 雄 9羽、雌 9羽     | 玉田 浩司  | 25 |
| クロジ        | 2   | 11月 18日        | 伊賀市上野森林公園  | 雄若 1羽、雌 1羽    | 玉田 浩司  | 26 |
| トモエガモ      | 1   | 11月 13日        | 桑名市多度町     | 雄、成鳥          | 山神 勝治  | 27 |
| ピロードキンクロ   | 1   | 11月 16日        | 津市白塚町白塚海岸  |               | 山神 勝治  | 28 |

### 脚注

1. この鳥は冬鳥ということですが9月初旬には渡ってくるのでしょうか？
2. コアジサシに混じってヒラヒラと飛んできた。
3. 台風後に漂流してきた流木に乗って流れてきた。
4. オオミズナギドリを観察中大きな鳥が飛んできてびっくりした。同定は、足が赤く、全体的に褐色で腹部が淡色であること。
5. ウミネコの幼鳥かと思っていたが、画像を見てびっくりした。同定は、淡い褐色で体や翼の下面に横斑がある。
6. 昨年と同じ時期(9/18)に同場所で観察している。出会えてうれしいです。
7. エナガ 10羽以上、センダイムシクイ 5羽以上の混群。2種のための混群は珍しいと思います。
8. 繁殖が終わったのか、雄・雌・幼鳥を見かけるようになりました。
9. 垂坂公園でエゾビタキを観察したのは初めてです。毎年意識して探していましたがコサメビタキばかりでした。コサメビタキは9/17から確認できています。

10. 地元の笠井幹雄氏からの情報を代理投稿、足環が付いており 2016.03.28 誕生の雄、千葉県野田市でリリースしたコウノトリと判明、日本コウノトリの会目撃情報へ情報提供した。
11. 1ヶ月前から観察されていましたが、台風の翌日には 30 羽まで増えていました。
12. 台風通過後、海岸へ 4 羽が飛来しユリカモメや他のアジサシ類と一緒に干潟にいました。
13. 台風通過後、ユリカモメや他のアジサシ類と一緒に干潟で 2 羽が休んでいました。翌日にはいませんでした。
14. 3つほどの大きな群れがあり、漁船の周りを取り囲むようにして飛び回っている群れもありました。遠くで見えにくかったのですが 100 羽以上はいたと思います。
15. 今冬の初認です。昨年より半月早い到着となりました。10/21 には雄も確認しました。
16. 今冬の初認です。昨年より 2 週間早い到着です。今年は冬鳥の到着が早く感じます。
17. 今季初認、県民の森芝生広場のブッシュから鳴き声がして気がつく。
18. 実ったムラサキシキブもヒヨドリに半分近くを食べられている。
19. カラスザンショウの木にいました。チョロチョロと動くのはわかっても、なかなかでてきてくれません。30 分程待つて出てきてくれました。
20. 昨年 9 羽が越冬しましたが今年も戻ってきました。今年で 3 年目ですので越冬地として定着したのではないかと思います。今冬も終認まで静かに観察を続けたいと思います。
21. 初認です。まだ警戒心が強く高い木からおりてきません。
22. 発見者寺田一彦氏からの情報を代理投稿。名張では初記録と思われる。2 羽の幼鳥が落鳥、死因は不明。
23. 今シーズンのノビタキの滞在記録です。最高で 8 羽確認しましたが、終認の 10/21 には 4 羽しか確認できませんでした。
24. 今シーズンの初認です。
25. 今シーズン初認でした。
26. ホオジロ、アオジ、カシラダカ、ミヤマホオジロが混在するポイントですがクロジを観察するのは 3 年間で初めてでした。
27. コガモがたくさん居ても見つけるのは、簡単でした。
28. 昨年は、40 羽以上が飛来しました。今年は何羽来てくれるか楽しみです。



アカアシカツオドリ：山神 勝治



トウゾクカモメ：山神 勝治



キビタキ：今西 純一



ハシブトアジサシ：吉崎 幸一



ムギマキ：西村 四郎



クロジ：玉田 浩司



アカエリヒレアシシギ：寺田 一彦



ビロードキンクロ：山神 勝治



オオミズナギドリ：寺尾 日那



ベニマシコ：玉田 浩司



コウノトリ：笠井 幹雄



キンクロハジロ：堀田 正昭



ジョウビタキ：矢田 栄史

## テレビ番組「伊勢 美し国から」



三重テレビ 第1・4日曜日 午後6時30分から6時45分 放送  
番組冒頭、24節気の各季節に三重で見られる野鳥を紹介しています。  
当会が制作に協力しています。

|           |    |       |
|-----------|----|-------|
| ・1月6日 放送  | 小寒 | オシドリ  |
| ・1月27日 放送 | 大寒 | チュウヒ  |
| ・2月3日 放送  | 立春 | アカゲラ  |
| ・2月24日 放送 | 雨水 | クマタカ  |
| ・3月3日 放送  | 驚蟄 | ウグイス  |
| ・3月24日 放送 | 春分 | ホオジロ  |
| ・4月7日 放送  | 清明 | ツバメ   |
| ・4月28日 放送 | 穀雨 | シロチドリ |
| ・5月5日 放送  | 立夏 | ダイサギ  |
| ・5月26日 放送 | 小満 | オオルリ  |
| ・6月2日 放送  | 芒種 | アオバズク |
| ・6月23日 放送 | 夏至 | アマサギ  |



ダイサギ

## 今後の探鳥会予定 (詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください。)



●1月13日(日) 上野森林公園探鳥会 小雨決行!  
開催地/伊賀市下友生松ヶ谷1  
三重県上野森林公園  
集合/ 9:30 上野森林公園ビジターコテージ  
解散/ 11:30 集合地  
共催/上野森林公園・三重県環境学習情報センター  
参加予約必要 上野森林公園 (0595-22-2150)

●1月20日(日) 肱江川探鳥会  
開催地/桑名市多度町猪飼 肱江川周辺  
集合/ 10:00 肱江川 猪飼橋 南詰め  
解散/ 12:00 集合地

●1月27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
開催地/愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
集合/ 9:00 愛知県弥富野鳥園  
解散/ 12:00 集合地

●1月27日(日) 大淀海岸探鳥会 小雨決行!  
開催地/多気郡明和町 大淀(おおよど)海岸  
集合/ 9:30 大淀小学校前 業平の松公園  
解散/ 11:30 集合地

●2月3日(日) 木曾三川探鳥会  
開催地/桑名市・海津市・愛西市  
揖斐川・長良川・木曾川  
集合/ 9:00 桑名市 多度大社前駐車場付近  
解散/ 12:00 集合地

●2月10日(日) 鈴鹿青少年の森探鳥会 小雨決行!  
開催地/鈴鹿市 県営鈴鹿青少年の森  
集合/ 10:00 管理事務所前(プレハブの建物)  
解散/ 12:00 集合地  
共催/鈴鹿市 参加予約必要 鈴鹿市環境政策課  
(059-382-7954)

●2月10日(日) 五十鈴川周辺探鳥会  
開催地/伊勢市浦田町 五十鈴川公園  
集合/ 10:00 浦田町バス停  
解散/ 11:30 現地

●2月17日(日) 両ヶ池探鳥会  
開催地/いなべ市大安町石樽東 両ヶ池公園  
集合/ 10:00 両ヶ池公園道路脇 駐車場  
解散/ 12:00 集合地

● 2月17日(日) 薦原(こもはら)探鳥会 小雨決行!  
開催地/ 名張市 薦原  
集合/ 9:00 アドバンスコープA D Sホール  
(旧名張市青少年センター) 駐車場  
解散/ 12:00 集合地  
参加予約必要 南 一朗 090-6594-0383

● 2月24日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
内容は、1月27日と同じです。

● 3月3日(日) 石垣池探鳥会 小雨決行!  
開催地/ 鈴鹿市野町 石垣池  
集合/ 10:00 石垣池駐車場横  
解散/ 12:00 現地

● 3月10日(日) 身近な冬鳥を観察しよう  
(安濃川河口)  
開催地/ 三重県総合博物館 及び 津市高洲町 安濃川河口  
集合/ 9:30 三重県総合博物館  
2階 エントランスホール  
解散/ 11:30 現地  
共催/ 三重県総合博物館・三重県環境学習情報センター  
参加予約必要 三重県総合博物館 059-228-2283

往復はがき あるいは 博物館ホームページ上で申し込み

● 3月12日(火) 海蔵川で鳥見ing!  
(バードウォッチング)  
開催地/ 四日市市西坂部町 海蔵川沿い  
集合 / 9:40 海蔵川代官橋 北詰  
解散/ 12:00 集合地

● 3月16日(土) 宮リバー公園探鳥会  
初心者歓迎 小雨決行!  
開催地/ 度会郡度会町 宮リバー度会パーク  
集合/ 8:30 宮リバー公園バザールわたらい前  
駐車場  
解散/ 11:30 集合地 又は 付近

● 3月24日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
内容は、1月27日と同じです。

● 3月24日(日) 篠田山探鳥会 小雨決行!  
開催地/ 松阪市久保町 篠田山斎場  
集合/ 9:30 篠田山 トイレのある大きい駐車場  
解散/ 11:30 集合地

## 探鳥会報告 (2018年8月～11月)



### ● 揖斐川ツバメのねぐら入り探鳥会

2018年8月18日(土) 17:00～19:00  
桑名市 多度町福永 揖斐川右岸堤防  
近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 30名(会員9名)  
カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、  
チュウサギ、コサギ、ハシボソガラス、ハシブトガ  
ラス、ツバメ、ウグイス、オオヨシキリ、スズメ、  
カワラヒワ 計 14種

下見では、あまりツバメが確認できていなかった  
ので心配したが、数千羽はいたようである。残念な  
がらねぐらは少し離れた所であったため、一斉にヨ  
シ原へ入る様子のはっきり見えなかった。スズメや  
カワラヒワもヨシ原をねぐらとしているのもよく  
観察できた。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2018年8月26日(日) 9:00～11:30  
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体/ 愛知県野鳥保護連絡協議会  
近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 20名(会員13名)  
カルガモ(10)、キジバト(5)、カワウ(30)、アマサ  
ギ(15)、アオサギ(20)、チュウサギ(120)、コサギ  
(2)、ケリ(20)、コチドリ(15)、タシギ(3)、タカブシ  
ギ(2)、イソシギ(2)、ツバメチドリ(1)、ミサゴ(1)、  
トビ(2)、チュウヒ(2)、カワセミ(1)、ハシボソガラ  
ス(20)、ハシブトガラス(130)、ヒバリ(4)、ショウ  
ドウトツバメ(10)、ツバメ(50)、ヒヨドリ(1)、ウグ  
イス(1)、セッカ(2)、ムクドリ(50)、スズメ(50)、  
ハクセキレイ(2)、セグロセキレイ(1)、カワラヒワ  
(1)、ドバト(10) 計 32種

先月に続き、今回も猛暑の中での開催となりました。  
それでも、20名の方が参加してくれました。参  
加者が多かったのもあるのか、チュウヒやツバメチ  
ドリなど 32種の鳥類が観察できました。

### ●五主探鳥会

2018年9月9日(日) 13:30 ~ 15:30

松阪市五主海岸

吉崎 幸一 吉崎 雅子 参加者 17名(会員 12名)

カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ケリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、セイタカシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、トウネン、ウミネコ、オオアジサシ、ミサゴ、トビ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ショウドウツバメ、ツバメ、セッカ、ムクドリ、スズメ 計 32種

未明には強い雨が降り開催が危ぶまれましたが、その後天候は回復し、やや強い風の中開催することができました。台風の後多くのシギチを期待したのですが、いつもより少なめでした。それでもキョウジョシギ、キアシシギなどは観察でき、沖にはオオアジサシも見ることができました。その後、池でセイタカシギをじっくり観察して解散しました。

### ●海蔵川で鳥見 ing!(バードウォッチング)

2018年9月11日(火) 9:40 ~ 11:40

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

笹間 俊秋 参加者 5名(会員 4名)

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、チュウサギ、コサギ、ケリ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、コムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ドバト 計 21種

連日、酷暑が続いていましたが、前日の雨も上がり曇り空で涼しい天候の中で探鳥ができました。ムクドリの群れが飛び回り、その中に少だけコムクドリが混じていました。その群れをハヤブサが襲い、逃げていってしまいました。川沿いの繁みには、ゴイサギと幼鳥のホシゴイが隠れていました。



モズ

### ●多度山タカ渡り探鳥会

2018年9月22日(土)

雨天中止となりました。

### ●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2018年9月23日(日) 9:00 ~ 12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 15名(会員 14名)

カルガモ(23)、カイツブリ(3)、キジバト(2)、カワウ(21)、ゴイサギ(3)、アオサギ(8)、ダイサギ(10)、チュウサギ(40)、ケリ(1)、イソシギ(3)、ミサゴ(5)、ハチクマ(2)、トビ(6)、チュウヒ(2)、サシバ(2)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(1)、ハヤブサ(1)、モズ(4)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(50)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(2)、ショウドウツバメ(2500)、ツバメ(20)、ヒヨドリ(1)、セッカ(1)、ムクドリ(1)、ノビタキ(3)、スズメ(70)、ハクセキレイ(2)、セグロセキレイ(1)、カワラヒワ(11)、ホオジロ(6)、ドバト(38) 計 35種

今回は猛禽デーでした。ハヤブサ・チョウゲンボウ・ハチクマ・サシバ・チュウヒ・トビ・ミサゴとたくさん出てくれました。木曾岬干拓地では餌を採るために飛んでいるショウドウツバメがたくさん見られました。

### ●香良洲海岸探鳥会

2018年9月29日(土) 10:00 ~ 12:00

津市香良洲町 香良洲海岸

今井 光昌 今井 鈴子 参加者 7名(会員 6名)

キジバト、カワウ、ダイサギ、ウミネコ、トビ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、エゾビタキ、コサメビタキ、スズメ、ハクセキレイ 計 15種

台風 24 号の影響で雨と風強く海岸に波が寄せ、本来なら中止の天候でした。雨にもかかわらず集合して頂いた方だけで決行しましたが、鳥たちも出て来てくれません。次回の探鳥会は雨天順延という手もあるのかなと思いました。

### ●答志島タカ渡り探鳥会

2018年9月29日(土)

台風の為中止となりました。

### ●相津岬タカ渡り探鳥会

2018年9月30日(日)

台風の為中止となりました。

### ●伊勢タカ渡り探鳥会

2018年9月30日(日)

台風の為中止となりました。

●みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会

2018年9月30日(日)  
台風の為中止となりました。

●市木川河口及び水田探鳥会

2018年10月14日(日) 9:00～12:00  
南牟婁郡御浜町市木

笹間 俊秋 中井 節二 参加者 26名(会員 9名)  
カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ヒメアマツバメ、タシギ、タカブシギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、ノスリ、コゲラ、チョウゲンボウ、チゴハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、メジロ、セッカ、ムクドリ、ノビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ホオジロ、ホオアカ、ドバト 計 33種

早朝まで雨が降り開催が心配されましたが、午前9時には薄日が出てきました。徐々に雲がとれてくると上昇気流が発生し、トビ、オオタカ、チョウゲンボウ、チゴハヤブサと一緒に空高く舞い上がって行きました。その他にミサゴやノスリも飛び、この日は多くの猛禽が出てくれました。他にもノビタキ、モズ、コシアカツバメ、ヒメアマツバメ、イワツバメなどが飛び、全 33種が観察出来ました。

●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2018年10月28日(日) 9:00～12:00  
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会  
近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 21名(会員 11名)  
ヒドリガモ(1)、マガモ(10)、カルガモ(30)、ハシビロガモ(2)、コガモ(300)、ホシハジロ(4)、カイツブリ(1)、キジバト(3)、カワウ(2500)、アオサギ(2)、ダイサギ(6)、オオバン(3)、タゲリ(2)、ムナグロ(1)、イソシギ(1)、ミサゴ(6)、トビ(3)、チュウヒ(2)、ハイタカ(1)、ノスリ(3)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(2)、モズ(5)、ハシボソガラス(15)、ハシブトガラス(30)、ヒバリ(1)、ヒヨドリ(5)、メジロ(1)、ムクドリ(5)、ジョウビタキ(3)、スズメ(50)、ハクセキレイ(1)、セグロセキレイ(1)、タヒバリ(1)、カワラヒワ(10)、ホオジロ(2)、ドバト(7)  
計 37種

快晴の青空に恵まれ、暑くもなく寒くもなく、探鳥会日和でした。チュウヒやノスリ、ミサゴ、チョウゲンボウなどたくさんの猛禽類が楽しませてくれました。

●中村川探鳥会

2018年11月4日(日) 9:30～11:30  
松阪市嬉野一志町 中村川中流域

吉崎 幸一 小野 新子 参加者 9名(会員 8名)  
キジ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、アマツバメ、ケリ、イカルチドリ、イソシギ、オジロトウネン、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計 32種

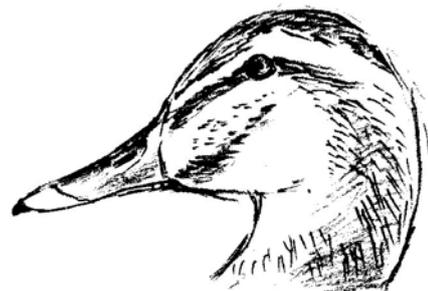
小雨の中、9名でのスタートとなりました。暫らくして雨は上がり、ホオジロやモズなども飛びまわるようになりました。枯草の中の雄のキジと枯れ枝の雄のジョウビタキもじっくり楽しませてくれました。空高くにはツバメが飛びまわっている姿が見られ、遅い渡りではないかと思われました。河原ではイカルチドリの他、昨年は見られなかったオジロトウネンも姿を見せました。探鳥会ではカモ類の姿は全く見えず、昨年とは違っていました。

●三滝川かんざつ会

2018年11月17日(土) 9:30～12:00  
三重郡菰野町 三滝川河川敷

矢田 栄史 参加者 8名(会員 5名)  
キジバト、アオサギ、ノスリ、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ 計 20種

晩秋の三滝川、広い風景をながめながらゆったりと歩きました。ツグミ、シメ、ジョウビタキ等の冬鳥たちも登場。夏鳥たちは南へ渡ったことと比べて越冬について話す。エナガ、コゲラ、シジュウカラ、メジロの混群をわりと近くでじっくりと観察できました。日常とはひとあじ違うひとときを、みなさんに楽しんでいただけたようです。



カルガモ

●海蔵川で鳥見 ing!(バードウォッチング)

2018年11月23日(金・祝) 9:45~11:45

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬 裕之 参加者10名(会員10名)

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、タゲリ、イソシギ、トビ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ウグイス、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、アオジ、ドバト 計20種

昨日から急激に冬型の気圧配置になったため、一気に気温が下がり鈴鹿おろしの強く冷たい風の中、今年度3回目、唯一の休日開催で鳥見 ing がはじまりました。風が強かったため鳥たちも姿を見せてくれるか心配でしたが、さざ波が立つ川面にカイツブリが元気よく泳いでいました。またカワセミが藪の際でじっと留まっている姿も見ることが出来、ちょっと期待しましたがその後はあまりパツとしない少々盛り上がりにかけるさみしい探鳥会でした。

本格的に冬がやってきましたので、これからが冬鳥本番という期待の元、解散いたしました。



トビ

### 編集後記

11月久しぶりに三重県に戻って来た。三重の山々はスギとヒノキで年中変化がない。裾の雑木が黄色に色づくのがわずかに秋を伝えている。第二次大戦で、山々の木の多くが切り出され、戦争に使われた。戦後、スギ、ヒノキの植林が始まった。三重では相当奥山まで植林されたようである。いきおい、植林地では生き物も制限される。リスはもうめったに見なくなった。サシバも少なくなった。その生き物でさえ、現在ではシカの食害で、風力発電で、太陽光発電でさらに減ることになる。自然を大切にする風潮は政治の世界にないのだろうか。

今回は会報を20ページでまとめるか24ページにするかで大いに迷った。4ページの出入りは相当大きい。迷ったあげく24ページにした。会員諸子のご批評を乞う。(M. H.)

### 原稿募集中

しろちどり編集部では会員からの原稿を随時募集しています。送付先は以下の通りです。

【e-mail】 post@miebird.org

【郵送】 〒514-2325

三重県津市安濃町田端上野 910-49

平井正志

なお、誌上では著者本人の名前で掲載するのが原則です。また、記事のレイアウトは編集部におまかせください。MSワードなどでレイアウトした原稿を送っていただいても、その通りに掲載できるとは限りません。レイアウトについて著者の要望があれば、お伝えください。なるべく、要望に沿える様にいたします。

しろちどり 98号

2019年1月1日発行

題字:濱田稔

表紙絵:平井正志

カット:平井正志

編集:平井正志・笹間俊秋・三曾田明

発行所:日本野鳥の会三重

平井正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印刷:株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市